

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 85



「阿倍野」の由来を
たずねて熊野街道を歩く

地名の由来は古代の豪族
「阿倍氏」説が有力

おんみょうじ
陰陽師・安倍晴明の
生誕伝承の地へ

阿倍野区の歴史は弥生時代に始まったといわれます。「阿倍野」の地名の由来についてはいろいろの説がありますが、古代にこの地を領有していた豪族阿倍氏の姓からとする説が最も有力とされています。かつては阿倍一族の氏寺もあったといわれています。

熊野街道を少し行くと鳥居があり、これが安倍晴明生誕の地といわれる安倍晴明神社です。「今昔物語」に登場する平安中期の陰陽師・安倍晴明はこの地で生まれたといわれるのが有力説で、境内には安倍晴明の銅像や産湯井があります。

阿倍王子神社は
八咫鳥のおみくじが人気



おみくじが入った5cm
くらいの八咫鳥

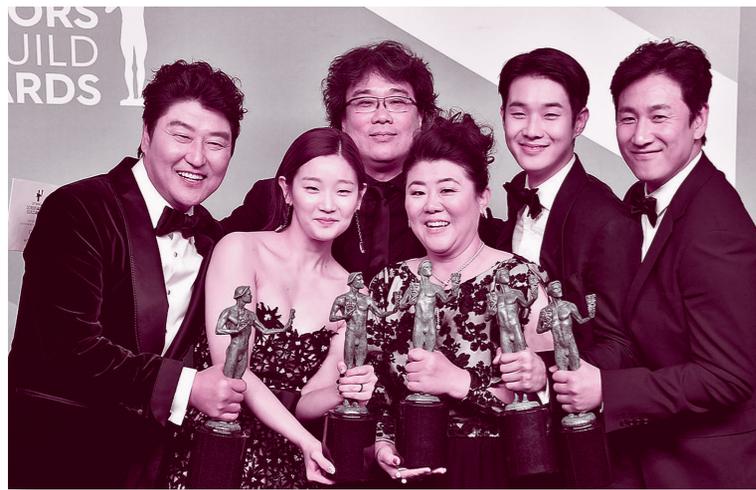


安倍晴明神社の安倍晴明公像

阪堺電車の松虫駅を降り、阿倍野筋を少し南に進み松虫の交差点を西にはいってすぐの細い道が熊野街道。入口に立つ石碑には、「熊野街道は現在の天満橋を起点とした参詣道で、熊野詣がさかんだった平安時代から鎌倉時代に整備された」とあります。

ここからもう少し進むと、阿倍王子神社があります。参詣道におかれた九十九王子神社で、大阪で現存する唯一の王子社です。歴史を感じさせる神社で、かわいい手作りの八咫鳥のおみくじも人気のことです。

16th Anniversary がえいが



「パラサイト 半地下の家族」

2019年の「第72回カンヌ国際映画祭」最高賞にあたるパルムドールを受賞し、さらに2020年のアカデミー賞作品賞（ほか監督賞など4賞受賞）も受賞した作品がこの映画です。もちろん韓国映画では初めてのことで、また、カンヌとアカデミー賞のダブル受賞は、1956年の「マーティ」（デンマーク）以来65年ぶりのこと。

ソウルに住むキム一家は4人家族全員が失業中で、住居と言えば高層アパートの半地下の狭くて汚い一室。その日暮らしの貧しい生活を送っています。そんなある日、長男のギウがIT企業社長のパク氏の娘の家庭教師の職にありつきその豪邸へ、そして妹のギジョンも、兄に続

カンヌとアカデミーの ダブル受賞の韓国映画

いて同じ豪邸に息子の美術教師として通うことに。さらに、父親はパク家の運転手、母親は家政婦にと、一家4人も正体を隠してパク家に関わり、次第にパク一家のなかに溶け込んでいきます。しかし、パク家の豪邸には隠された秘密がありました。

この映画に出ているのは、二つの家族です。富豪の上流階級一家と貧困状態の家族。映画はコミカルですが、終盤は予想もつかない、ドキリとさせる悲惨な展開が待っています。監督はポン・ジュノ。主演のソン・ガンホは「タクシードライバー」などで日本でもおなじみの人気俳優。上映時間は132分。

（写真は、今年2月のアカデミー賞授賞式から）

Culture Navi かるちナビ

作りませんか



じゃがいもの
きんぴら
交野市職労 国武 裕次さん
協力：現業評議会・給食部会

旬の新じゃがで ほっこり美味しいきんぴら



材料（4人分）

薄切り牛肉40g、じゃがいも120g、にんじん20g、白いりごま4g、お酒4g、みりん6g、濃口醤油10g、砂糖8g、菜種油1.2g

作り方

- ①薄切りの牛肉を2センチ幅に切り、にんじんは3ミリ角×4センチの千切りにする。
- ②じゃがいもは4～5ミリ角×4センチの千切りにして、さっと水にさらす。
- ③フライパンで菜種油を熱し牛肉を炒める。
- ④じゃがいも・にんじんを加え炒める。
- ⑤じゃがいもが透きとおってきたらお酒・砂糖・みりんを加える。
- ⑥なじんだら濃口醤油を入れ、水分がとぶまで炒め煮て、白ごまをふりかけてできあがり。

シャキッと歯ごたえを楽しみたい時は短めに炒めて。長く炒めるとホクホクの食感に。ビタミンCが豊富で、美容や疲労回復にも。

心に響くひとこと

自分で薪を割れば
二重に温まる
ヘンリー・フォード
（フォード・モーター創設者 1863年～1947年）

実に見事なたとえです。体を温めるためには暖炉が必要ですが、そのための薪割りから自分でやれば、運動した分、もっと体が温まります。これと同様に、たとえば介護に関して知識を得たいと思ったら、現場で実際に体験したり、自ら動いているいるな人に教を請うたりすれば、「二重に」勉強になります。自分で動くことの価値を改めて感じさせてくれる言葉です。

今月の 記念日

世界赤十字デー
5月8日

1859年にスイス人のアンリー・デュナン（赤十字の創始者）が、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノで「苦しむ人は敵味方関係なく救護しなくてはならない」という思いを持ったことが赤十字思想のきっかけです。現在も、赤十字はいかなる状況下でも中立性を保ち、苦しんでいる人びとを救うことに力を注ぎ、国籍や信条などにかかわらず公平性をもって支援するというスタンスで取り組まれています。1948年、アンリー・デュナンの誕生日である5月8日を「世界赤十字デー」と定め、世界190カ国と地域に広がる赤十字・赤新月社に関わる一人ひとりが、赤十字について原点に立ち戻る日としています。